

平成22年度 行財政再生シート

NO. 5-3

項目名	家庭ごみ	事業名	家庭ごみ資源化事業
担当部	環境経済部	担当課等	生活環境課

この事業に係る費用を市民一人あたりに換算すると **1,049 円** です。

※事業費（平成22年度予算額）を人口5万5千人で除した額

1. 事業の目的・概要等

(1) 事業の目的	資源の有効利用（リサイクル）することによりごみの減量化や処理経費の節約。 循環型社会の実現や天然資源の消費抑制を図る。		
(2) 事業の概要	平成18年2月からプラスチック製容器包装と紙容器包装の分別を実施し「容器包装リサイクル法」に定められた全品目のリサイクルを常滑市において実施している。 市内180ヶ所 プラスチック製容器包装 週1回・紙製容器包装 月2回回収		
(3) 実施・運営方法		1. 市が直接実施・運営	
	○	2. 外部へ委託または指定管理	委託先等 常滑塵芥清掃社・テクア・葦重
		3. 団体等への補助金により実施	実施主体
		4. その他（ ）	
(4) 実施期間など	開始年度	平成17年度	終了予定年度 -
(5) 根拠法令など	容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律（容器包装リサイクル法）第8条第2項 廃棄物の処理及び清掃に関する法律第4条（市町村の責務）		
(6) 近隣市町・類似団体等の状況	東海市・・・プラスチック製容器のみ	武豊町・・・プラ容器＋紙製容器	
	知多市・・・	//	南知多町・・・実施していない
	半田市・・・	//	美浜町・・・実施していない
	大府市・・・	//	阿久比町・・・プラスチックのみ
			東浦町・・・
			//

2. 事業費の推移

(千円)

-		H19決算額	H20決算額	H21決算額	H22予算額	
支出	事業費	54,160	53,610	52,959	57,722	
	人件費※	正規				
		人件費	0	0	0	0
		再任				
		人件費	0	0	0	0
臨時						
人件費	0	0	0	0		
支出計		54,160	53,610	52,959	57,722	
財源	国・県支出金					
	地方債					
	その他（雑入）			7,684	1,900	
	一般財源	54,160	53,610	45,275	55,822	
市民1人あたり(円)★		985	975	963	1,049	
投資事業費	全体事業費		~H22未見込	H23以降	進捗率	
	うち一般財源		うち一般財源	うち一般財源	(H22未見込)	

※人件費の算出単価 ・正規職員 : H19/8,000千円、H20/7,800千円、H21/6,900千円、H22/6,900千円

・再任用職員 : H19/2,900千円、H20/2,800千円、H21/2,600千円、H22/2,400千円

・臨時職員 : H19~H22/1,000千円

★支出計を人口55,000人で除した額

3. 事業実績・計画と成果等

	H19実績	H20実績	H21実績	H22計画
事業実績	プラスチック製容器包装 410.1 t 紙製容器包装 318.0 t 委託料 53,046 プラスチック収集運搬 (t当り 19,000円) 紙製容器包装収集運搬 (1箇所当り 1,100 円) プラスチック中間処理 (t当り 60,000円) 紙容器包装中間処理 (t当り 15,000円)	プラスチック製容器包装 388.9 t 紙製容器包装 252.9 t 委託料 53,504 以下左に同じ	プラスチック製容器包装 370.9 t 紙製容器包装 235.0 t 委託料 52,959 以下左に同じ	プラスチック製容器包装 530.0 t 紙製容器包装 400.0 t 委託料 57,407 以下左に同じ
成果・効果	平成18年2月からプラスチック製容器包装と紙製容器包装が分別収集に加わり、今までもえるごみで焼却されていたのが、資源として再利用してもらうことにより、資源の再利用（リサイクル）が図られ、もえるごみの量を減らすことができた。			

4. 事業の必要性

7	チェック数	✓ 法定等の実施義務がある	✓ 緊急度が高い	✓ 類似(代替)事業が存在しない	
		実施目的が未達成である	✓ 政策・施策の中で優先度が高い	受益者が多く市民ニーズが高い	
	✓	市以外では実施不可能である	✓ 継続しなければ効果が表れない	✓ 市長の公約に掲げている	
必要性	廃止・凍結・休止・先送りした場合の影響	容器包装リサイクル法に基づき、分別収集は全国的に推進されていることであり、本事業の廃止等は考えていない。			
	想定される代替事業		なし	-	
		市既存事業の活用	市（担当課）		
			既存の事業		
民間事業の活用		想定事業主体			
	代替事業				

5. 事業の自己評価(今後の方向性・課題など)

<p>今後も市民の協力のもと、ごみの減量化に努め、資源の有効利用を図る為プラスチック製容器包装や紙製容器包装の収集量が増えるように減量へのPR（広報とこなめ）を始め再資源化へ更に努力していきます。</p>
--